

令和5年12月8日
(2023年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第六中学校
校長 須藤 渉

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月31日に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表される予定です。

本調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学と英語に限られています。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法と工夫改善に取り組んでまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語・・・ 平均正答率は全国値をやや上回った。

「記述式」の問題形式において正答率が低く、読み取った内容の文章化が課題となった。

《各内容における成果と課題、指導改善のポイント》

『知識及び技能』

言語の特徴や使い方に関する事項

- ・平均正答率は全国値とほぼ同じまたは全国値を上回る結果であった。語句の理解や正しい漢字の使い方において力が付いてきている。

情報の扱い方に関する事項

- ・「意見と根拠・具体と抽象など、情報と情報との関係について理解している」の出題において正答率は全国値とほぼ同じまたは全国値を上回る結果であった。

我が国の言語文化に関する事項

- ・「歴史的仮名遣いを現代的仮名遣いに直して読む」「古典の原文を現代文と対応させて内容を捉える」の出題において平均正答率は全国値を上回ったが、「文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる」の出題は全国値を下回った。また、この出題に関しては無解答率も全国値を上回り課題と言える。

『思考力・判断力・表現力等』

読むこと

- ・「読むこと」の問題において全国平均を下回った。また、記述式問題での無解答率が全国平均を上回っている。

話すこと・聞くこと、書くこと、

- ・「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問ができる」「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる」の出題は正答率が全国値を上回った。記述式の問題と「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる」出題では全国値を下回った。

国語における成果と今後の改善点について

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の全問題においての正答率が全国値を上回るまたはやや上回る結果であった。日々の授業の中で定期的な漢字テストや語句の意味調べの反復を継続してきたことの成果が見られた。

記述式の問題については課題が見られた。これまでも実践してきたが、自分の考えを伝える練習やまとめる練習を一層取り入れていく。

- 数学**・・・平均正答率において全国値をやや下回った。特に記述形式の出題においては、全ての問題において全国値を下回り、無回答率においては全国値を上回っている。

計算や事柄・事象からの読み取りの正答率は良好であったが、数学的な語句の理解や説明をする（記述する）問題において、正答率が低くなっている点が課題である。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と式

- ・「知識・技能」の観点の「自然数の意味の理解」の問題における正答率が、全国値を下回っている。「思考・判断・表現」の観点においては「事柄が成り立つ理由の説明」「結論が成り立つ事柄を見出し説明する」の問題の正答率も全国値を下回るまたはやや下回る結果であった。

図形

- ・「知識・技能」の問題の正答率は全国値を上回っていた。「思考・判断・表現」の観点の「事柄が成り立つことを証明する」問題については全国値を下回り、無解答率は全国値より高い結果であった。
- ・図形の証明に関する問題において「知識・技能」よりの、短答式による出題は正答率が良いが、記述式となると下がる傾向が強い。既習した内容を判断して問題に応じた文章化をする学習が必要である。

関数

- ・「知識・技能」の観点の出題は数学的な語句の意味を理解しているかの問題の正答率は全国値を下回ったが、「グラフからの必要な情報の読み取り」「事象に即した解釈ができる」の問題は全国値を上回った。
- ・「思考・判断・表現」の観点の「事象を解釈し問題解決の方法を数学的に説明する」の問題において全国値を下回った。

データの活用

- ・全問題で正答率が全国値を下回った。特に「四分位範囲や累積度数の意味」の理解や表から傾向を見出し、解を見出すことに課題がある。

数学における成果と今後の改善点について

日々の授業の中で、どの単元においても反復して計算等をさせることを継続してきた成果が見られ、「知識と技能」の観点に関しては正答率が全国値を上回る結果であった。

「思考・判断・表現」の観点に関しては全国値を下回るまたはやや下回る結果となった。生徒相互で問題に対しての解答手法を説明させることや、解答の手法を論理的に考えさせたりまとめせたりすることの時間をより多く取り入れていく。

- 英語・・・全ての項目においての平均正答率が全国値を上回るまたはやや上回るの結果であった。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

聞くこと

- ・平均正答率は全国値を上回ったが、「日常的な話題について、自分の置かれた状況を判断し必要な情報を聞き取る」問題では正答率が全国値を下回った。聞き取った情報を自分に置き換えて思考することに課題がある。

読むこと

- ・「思考・判断・表現」を見る問題での平均正答率は、全国値を上回った。読み取った情報を判断し、正しい選択をする力は定着してきている。

書くこと

- ・全出題において平均正答率が全国値を上回った。他教科では正答率が低い傾向にあった、記述式の出題においても平均正答率が全国値を上回ったが、無解答率も全国値を上回った結果となったことは課題である。

普段の授業の中で本文を繰り返し聴かせることや、リスニング問題の練習に努めてきたことが力につながっていると推測される。

また、日常的にペア学習を取り入れ、身近にあった出来事等を会話をさせ、お互いに質問することで、聴く力と伝える力を養ってきた。今後も継続して取り組んでいくよう努めていきたい。

2 質問紙調査の結果について

【基本的な生活習慣について】

朝食は約90%以上の生徒が毎日とっており、起床・就寝の時刻についてもおよそ80%以上の生徒が決まった時間に生活できていると回答している。

【規範意識、自己有用感など】

「いじめは、どんな理由があってもいけない」に関する肯定的な回答は95%以上であった。「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがどのくらいありますか」では肯定的な回答が全国値を上回った。「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」は全国値を下回った。

【学習習慣、学習環境について】

学習習慣の面では自分で計画を立てて勉強をする割合は全国値を下回ったが、平日に3時間以上勉強する生徒は全国値を上回っていた。普段の授業においても「授業で学んだことを、他の授業で生かしていますか」に関して全国値を上回っていた。

また、「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」は全国値を上回り、テスト科目の教科の「授業はよく分かりますか」は全国値とほぼ同じまたは上回る結果だった。

【1・2年生時の授業について】

「課題の解決に向けて自ら取り組んでいた」「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていた」「自分にあった教え方・教材・学習時間になっていた」「よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」という項目については全ての項目で全国値を上回った。

3 今後の取り組み

基本的な生活面（朝食摂取・決まった時間の起床就寝）は各ご家庭での協力があり、確立できています。

学習面においては、全国平均とほぼ同じか上回る結果であったので、基礎的な部分の習得はできていると捉えられます。各教科のアンケートにおいても「授業の内容はわかる」と回答した生徒は全国値とほぼ同じか上回っていました。

アンケートの「先生は間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれる」の肯定的な回答が高かった結果を今後も継続できるよう、生徒の困り感に寄り添い指導・助言を実践していきます。

各教科において「学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」「国語・数学・英語の授業は大切だと思いますか」に関して全国値とほぼ同じか上回っていました。今後も単に知識を与えるだけでなく、学ぶ意味や目的・学習の活用方法等を丁寧に指導し、学習の定着を図っていきます。

また、学習時間において平日に「2時間以上学習する」の回答が40%以上あり全国値を上回っていたが、「全く勉強をしない」「1時間より少ない」と回答が約30%でした。学習習慣の定着につながる働きかけを、普段の教科指導や日常の関わりの中で実践していき、学習習慣の定着を図ることで学力の向上につなげます。各ご家庭でもお声がけをお願いいたします。

規範意識や自己有用感に関するアンケート結果において、全国値よりやや下回る結果でした。

規範意識をより高めていくために、全学年で取り組んでいる「いじめ防止授業」や普段の道徳授業の中で、いじめの構造や過程等の学習をより丁寧に言い、生徒間での話し合い活動・他人を認め合うことや褒めることで、道徳的な意識や感情を高めるよう努めていきます。

自己有用感については「将来の夢や目標」「自分には良いところある」の意識が全国値よりやや低い結果であることから、キャリア教育の取り組みの中で、自将来の目標設定や自己の良い部分・周りの生徒の良いところにも目を向けられるような指導の充実を図っていきます。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしく申し上げます。